

今後の水道事業経営について

アナ： 「市長が語る 2018 三島」第 2 回の今日は、「今後の水道事業経営」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： そもそも水道事業は、どのように運営されているのですか。

市長： 水道事業は、地方公営企業法に基づいて地方自治体が経営する企業でありますため、他の部署とは違って公共の福祉の増進だけでなく、経済性も求められます。原則として、水道料金収入などによりすべての費用を賄う、いわゆる「独立採算性」で運営しています。

アナ： なるほど。水道事業は水道料金によって成り立っている、ということですね。昨年の 10 月には、35 年ぶりに水道料金が改定されましたが、水道事業経営はこれから改善されていくのでしょうか。

市長： 主に 15 歳から 64 歳の生産年齢人口の減少や、生活スタイルの変化によりまして、三島市の水需要は平成 7 年をピークに年々減少傾向にあります。そのため、水道事業経営を取り巻く環境は、料金改定後も依然として厳しい状況と言わざるを得ません。水道施設を健全な状態に維持しながら、安定した水道事業経営の持続が難しい状況であることは全国的な課題となっています。

アナ： 全国の水道事業体が厳しい経営を迫られている状況にあるのですね。そのなかで、今後、三島市の水道事業はどのように運営していく予定なのでしょうか。

市長： 昨年度、将来にわたって安定した水道事業を継続していくために、今後の水道事業の長期的な基本計画となる「三島市水道事業経営戦略」を策定しました。これは、昨年実施した料金改定を反映させた新たな財政計画であり、今年度からスタートし、10 年間を計画期間としています。

アナ： 昨年の料金改定を踏まえて新しい財政計画を策定したわけですね。具体的にはどのような内容になっているのでしょうか。

市長： 水道施設や管路を整備していくための投資の見通しと、それに必要となる財源の見通しを構成要素とした長期の財政計画となっておりまして、例えば、組織改編、人材育成、事業の広域化、官民連携などの事業の効率化や経営健全化への取り組みについても今後の方針を記載しています。

アナ： なるほど。この「経営戦略」に基づいて事業運営をしていくということですね。

市長： そうですね。また、今年度から 40 年間にわたる非常に長い期間の水道施設整備計画となる「アセットマネジメント」も同時に策定いたしました。

アナ： 40 年間と言いますとかなり期間が長いというイメージですが、「アセットマネジメント」は、水道施設の整備や維持管理していくための新たな計画という位置づけ

なのでしょうか。

市長： その通りです。今後、さらに少子高齢社会が進行し、水需要の減少が予想されている中、高度成長期に整備した施設や管路の急速な老朽化や、財政状況の悪化が懸念されております。このように、これまで経験したことのない水道施設の大規模な更新や再構築の時期を迎えておりました、長期的な視点で施設整備や更新需要の見通しを定めて、実施していく計画となっています。

アナ： 今後は、南海トラフ巨大地震などの災害に備えた施設整備もひとつの重要なテーマとなってくるのでしょうか。

市長： そうですね。災害による被害を最小限にとどめるためにも、計画的で効果的な施設整備が求められています。

アナ： 改めて、水道は必要不可欠なライフラインだと感じますね。

市長： これまでと同様に、市民の皆様に安全で安心な水道水をお届けできるよう努め、また、より経営効率を高めることで、将来にわたって持続可能な水道事業経営に取り組んでいきます。引き続き、利用者皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。